



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 53
R6. 10. 10
(文責: 校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

学校の幸せづくりは、はき物をそろえることから

下の詩は、はき物を揃えることが自分の心を正しくすることにもつながっている、ということを教えてくれる素敵な詩です。「だれかがみだしておいたらだまってそろえておいてあげよう」というところも、後から使う人を思いやる気遣いが感じられ、爽やかな気持ちになります。

「はきものをそろえる」 藤本幸邦（ふじもと こうほう）作

はきものをそろえると 心もそろう
心がそろうと はきものもそろう
ぬぐとくにそろえておくと はくときに心がみだれない
だれかがみだしていたら だまってそろえておいてあげよう
そうすれば 世界中の人の心もそろうでしょう



この詩は、長野県にある円福寺というお寺の和尚さんだった藤本幸邦（ふじもとこうほう）さんが作った詩です。藤本さんがどうしてこのような詩を作ったのかをお知らせします。

今から80年ほど前、日本は戦争をしていました。そして、その戦争が終わった頃、東京はたくさんの爆弾によって、焼け野原のようになっていました。そのような中、上野駅の周りには、食べ物や生活に必要な物を売るお店がいくつも並び、多くの人々が集まるようになっていました。しかも、大人だけでなく、戦争で親を亡くした子どもたちもたくさん集まっていたのです。その子どもたちは、着る服もぼろぼろで、多くの子どもたちが裸足でした。それを見た藤本さんは、とても心を痛めました。そこで、藤本さんは、子どもたちを自分のお寺で育てることにしたのです。そして、さっそく子どもを連れて長野県のあるお寺に帰りました。ところが、ある日、玄関を見ると、脱ぎ捨てられたはき物が折り重なったり、あちらこちらにバラバラになっていたりしていたのです。それを見た藤本さんは、また心を痛めてしまったのです。

そこで、藤本さんは、子どもたちに「はき物をほったらかしにしておくと、また戦争になってしまうぞ」と教えました。これがきっかけとなって、藤本さんはこの詩を作ったそうです。

つまり、自分のはき物をそろえずに脱ぎっぱなしにするという行動は他の人がどのような気持ちになるのかということをまったく考えていないということを表しています。しかも、自分さえよければいいといった、自分勝手な考え方しかしていないことを表す行動だということです。反対に、自分のはき物をそろえることができる人は、心が穏やかで、自分の行動を冷静に考え、他の人がどのような気持ちになるかも考えることができる人です。しかも、そのような人は、他の人が乱した履き物を、黙ってそろえることができる人でもあります。

このように、他の人の気持ちにも考えを巡らせることができるようになれば、お互いに気持ちのよい生活ができるようになるのです。そうすれば、争いごともなくなって、みんながお互いのことを思いやることができる、幸せな学校になっていくのではないかと思います。

保護者の皆様へのお願い

右の写真は、本校のあるトイレのスリッパの様子です。

脱いだスリッパを揃えることを指導していますが、このような状態になっていることがよくあります。

履き物を揃えることは、家庭教育における躾（しつけ）でもあります。ご家庭でも、脱いだ履き物を揃えることについて、お子さんに改めてお話いただければ幸いです。

